

語学研修活動報告書 ニューカッスル大学

外国語学部英米学科1年（参加時）

私はこの夏季休暇中、オーストラリアの東端に位置するニューカッスルで行われた語学研修に参加した。海は広く透き通り、夕暮れ時の空が綺麗な街だった。5週間という短い期間ではあったが様々な経験ができ、楽しく学びの多い時間であった。以下ではいくつかの項目に分けて、その詳細を振り返る。

1. 学校生活

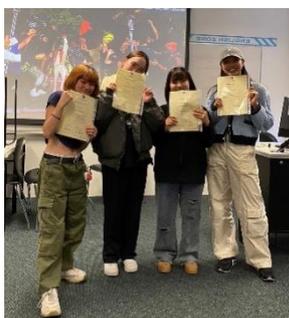
授業のトピックは週ごとに切り替わり、主に環境問題についての内容であった。課題としてこれに関連したエッセイを出されるのだが、エッセイの構成を詳しく教えていただき、添削も丁寧にしてくださったためコツをつかむことができた。

また私のクラスの7割は日本人だったが、グループ活動では日本人とそうでない生徒が混ざっていたため、より英語での会話が弾んだ。しかしそれぞれの国で英語訛りがあり互いの英語を聞き取るのが難しかったため、スピーキング能力を上げなければならないことを痛感した。そこでホストファミリーに発音練習に付き合ってもらったり、帰り道や家で英語の独り言を言い続けたりして口を慣らしていった。その効果もあってか、以前よりも文章をスムーズに読めるようになったと実感している。

そして最終日のプレゼンは、プレゼン10分＋ディスカッション10分という初めての構成で進められた。ディスカッションではプレゼンの内容に関する質問(Yes, No では答えられないもの)をグループで考えて、クラスみんなの意見をまとめた。その際の司会進行では英語力のほかに意見をまとめて分かりやすく要約する必要があり難易度は高かったが、その分達成感は大きく聞き手側も内容について理解を深められる良いプレゼンだと感じた。



昼休み



プレゼンのメンバー



学校の友人たちと

2. ホストファミリー

ホストファミリーはオーストラリアの方だった。本当の家族のように接していただき、そのおかげでホ

ムシクになることもなく、寧ろ日本にいる家族に近況報告するのを忘れるくらいに楽しい毎日を送ることができた。ホストシスターの彼氏さんもほとんど毎日家にいたのだが、彼も家族の一員のような関係であたたかいご家族だった。そして夜ご飯の時間はみんな一緒に会話を楽しんだ。特に印象的だったのは、“What’s the best thing that happened to you today?” とみんなでその日の出来事を共有する時間だ。昔からの習慣らしい。ホストシスターの話すスピードやファミリーのジョークについていくので必死だったのもいい思い出だ。また、美味しいお昼ご飯を作ってくれたり、週末には動物園やビーチに連れて行ってもらったりしてファミリーとの思い出がいっぱいできた。動物園ではアルビノのカンガルーにご飯をあげたり、小鳥を手に乗せたり、孔雀が柵のない道を歩いていたりして、日本よりも近距離で動物たちと触れ合えた。そして最後の日曜日は Anna Bay というビーチで過ごした。ここではラクダに乗る体験ができるのだが、それが想像以上に良いアクティビティだった。砂浜から波打ち際まで歩いてくれたので、景色がとても綺麗で波音とラクダの Tom にも癒された。こんな素敵な場所に連れてきてくれたファミリーには感謝の気持ちでいっぱいだ。



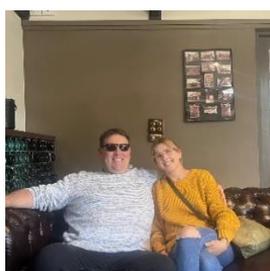
ランチ



アルビノのカンガルー



Anna Bay で



ホストファミリー



Anna Bay

3. 週末や放課後

この地域は店じまいが早く、ショッピングモールでも基本は17:30閉店だった。そのため週末にいろいろなところへ出かけた。交通費が安いのでシドニーには3回行き、オペラハウスなどの有名どころやタロンガ動物園、ロックスマーケットという毎週末に開催されている有名なマーケットに行ったりした。電車で2、3時間かかる場所にも数百円で行くことができ、日曜日は交通費が半額に

なるので節約できた。オペラハウス周辺は水鳥が飛んでいて港町のような街並みがとても綺麗で印象に残っている。動物園では見たことのないくらい活発に泳ぐペンギンや野生の大きなトカゲ、そしてコアラを間近で見て癒された。ニューカッスルでもマーケットが開催されていて、買い物を楽しんだ。



オペラハウス



ロックスマーケットのカンガルー肉

4. 最後に

私にとってこの短期留学は、日本という国を客観視する機会になった。まずオーストラリアに来て閉店時間が早いことに驚いた。ホストファミリーの仕事が終わる時間も同様に早かった。それに対して日本は過労が問題視されており、残業も多い傾向にある。日本はワークライフバランスが良いとは言い難い。また、オーストラリアの人々は「他人を助ける」「思いやりのある行動」をすることに躊躇いがない。実際に、私がバス停の時刻表を見ていると「何を探してるの？」と聞いてくれたり、バスのストップボタンに手が届かなくて困っていると代わりに押してくれたりした。そしてホストファミリーと出かけた時に迷子に見える子供を見かけたのだが、マザーはすぐにその子に駆け寄った。他にも沢山あるが、多くの人がこのような行動を「すぐに」できることに驚いた。最後に、他国の人々は自国についてよく知っている人が多く圧倒された。例えば高校生のホストシスターや飛行機で隣の席だった韓国人と政治的な話をしたことがあったのだが、その時に私は日本のことについてあまり話せなかった。ホストシスターに関しては家族で日頃からその類の話をして自分の意見を言い合っていたので、そのような機会を作ろうと思った。私は今まで日本が1番いい国だと思っていたが、実際に自分の目で新しい世界を見てみるとそうとも限らないのだと感じた。初めは外国に行くことが怖かったけれど、知らない場所に飛び込んでみることは人生の糧になることを実感した。これまで興味があることにしか挑戦していなかったが、機会があればそれを逃さず色々なことにチャレンジしようと思う。